

---

# 突然に異世界召喚されたときの対処方法

葉藻阪 松園

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

突然に異世界召喚されたときの対処方法

### 【Nコード】

N7055Z

### 【作者名】

葉藻阪 松園

### 【あらすじ】

家への帰り道に突然光に包まれたと思ったら、突然森の中。しかも目の前に血だらけの女の人我倒れたた???意味分からん…。ウハウハハーレム生活(猫耳娘あり)を目指すちよつとエッチな主人公が、主人公属性(呪い?)をもらって異世界である意味無双する話。王道な異世界召喚もので、最初は貧弱だけどチートへ向かって成長するはず、ご都合主義要素もあり。

## プロローグ

俺は、藤沢章17歳。

身長平均サイズで、太ってもいないが痩せてもいないし、顔も性格もいたって普通。

（注意 あくまで本人の自己申告であり、美化されている恐れがあります。）

趣味は、音楽聴くことと、マンガを読むこと。

好きな言葉は、夏休みと冬休み。

嫌いな言葉は、勉強とテスト。

その辺にいるごくごく普通の高校生だ。

少しむっつりだけど…。むっつりなところも含めて、普通の高校生だ。

人前でマンガは読むけどエロ本は読まない、一本筋の通ったむっつりな普通の高校生のはずだった…。

ずいぶんと話がずれたな…。

現実逃避はやめて、もう一度、現在の状況を把握しよう。

俺は、ほんの数秒前まで学校から帰っている途中だった。

今日はお気に入りの漫画の発売日だったから駅前の本屋で目的の物をゲットした後、コンビニで新発売のアイスも買っていた。

新触感とやりに釣られて買ってしまったアイスだ。

そして、早速、漫画を読みながら、イヤホンで音楽を聴きつつ、ア

イスをくわえて鼻歌混じりで下校しているところだった。

そして、公園の前で突然光に包まれたと思ったら…

目の前に血だらけの黒髪で褐色肌の美女。

訳が分からん…。

しかも公園に入ろうとはしゃいでた餓鬼どもがみんな消えてるし…。  
アスファルトの道路やら建物やらなくなって、森の中だし…。

3

しかも、よく見るとなぜか美人さんの背中からおっきな蜘蛛の足？  
みたいなのが四対生えているし…。  
人間の腕より大きな蜘蛛の足が。

携帯電話を確認してみるが、なぜかというか、それとも、やはりと  
言えばいいのか、圏外だった。

「大丈夫か？」

自分でもなんて間抜けな質問だろうと思う。

肩から腹にかけて大きく体が裂けて、血まみれだ。

大丈夫なわけがない。

でも気が動転して他に言葉が出なかったからしかたないだろう？

女性の脇にしゃがんでもう一度声をかけるが、美女の赤眼には生気がない…。

彼女の伸ばした手をおもわず掴む。

褐色の肌が激しく波打ち、血が傷口からあふれ出していく。

不規則で荒い呼吸が耳に纏わりつくように絡んでくる。

「誰かいないか？怪我を治せる人！！！」

思わず叫んでしまう。

声が周りに木霊するだけで、誰からも返事はない。

あたりを見回すと、見たことのない木に囲まれていることに今更ながら気がついた。森独特の湿った臭いに澄んだ空気は、日本の森と変わらない。ただ、血臭が混じっているため、不快感が刺激され、さらに混乱を加速させる。

そのとき、頭の中に突然声が響いてきた。

” 異世界人である藤沢章の召喚を観測しました。数奇の女神より祝福ポイントが250ポイント藤沢章に付与されました。

召喚事故を観測しました。

嘲笑の邪神より祝福ポイントが50ポイント藤沢章に付与されました。

藤沢章の合計祝福ポイントは、300ポイントになりました。”

ハツとして周囲を見渡すが誰もいない。

異世界人の召喚???

そのせいで、俺はここにいいのか？

召喚事故???

そのせいで、彼女は怪我をしているのか???

合計祝福ポイントが、300ポイント???

何のポイントだ？

意味が分からない???

「誰かいるのか？いるんだったら出てきてくれ！」

返事はない。

空耳だったのか？

いや確かに聞こえた。それもはっきりと。

とても明るい声が。この状況に似つかわしくない澄んだ声が。

嘲笑やら邪神やら祝福やらと、この状況でふざけた単語を並べてくる声ははっきり聞こえた。

何もできない自分にも苛立つ。

しかもこの理不尽な状況をどうしたらいいか分からない。

不満をどこかにぶつけたくなくてさらに大声になってしまっ。

「隠れてないで早く出てきてくれ！！

女神だとか、神だとか、くだらないこと言ってる間があったら、怪

我の治せる人のいる所まで彼女を運ぶの手伝ってくれ！

それとも、あんたが治療できるのか！」

するとすぐさま、先ほどと同じ声が頭に響く。

” 藤沢章の願いに博愛神から返答がありました。

藤沢章が対価として無意識接触属性の付加を了承し、さらに祝福ポイント200を支払うのであれば、彼女の治癒を行なってくれるようです。”

何を言っているのか未だに訳が分からない。

しかし、治すと言っている。

無意識接触属性とやらの付加を了承すれば、治すと言っている。

祝福ポイントとやらを払えば、治すと言っている。

そのことだけは理解できた。

蜘蛛女の手が小刻みに震えているのに気付く。

このままだと、長く持たないのは目に見えている。

当然俺の返答は決まっていた。

「女神だか神だか何だかわからないが、治せるなら早く治してくれ  
！」

大声で叫ぶ。こんなに大声を出したのは、小学生以来だろう。

普段大声を出さないせいかな咽そうになるのをこらえると、再度、どこからともなく頭に声が響いてきた。

”藤沢章の願いを受諾しました。

対価として、藤沢章に博愛神の無意識接触属性が付加されました。さらに対価として、藤沢章は祝福ポイント200を支払いました。



藤沢章の合計祝福ポイントは、100ポイントになりました。”

そんなアナウンスと同時に、腕の中の蜘蛛女が突然光り出し、まぶしくて思わず目をつぶってしまっ。

目をゆっくりと開けると、だんだん目が慣れてくる。

完全に視覚を取り戻すと、蜘蛛女の傷が完全に塞がり、静かに寝息を立てているのに気がついた。

なんだっただんだ一体？

未だに理解できない状況だ。

ただ、蜘蛛女の怪我が治ったのを確認して、俺の心も落ち着いたので、気がついた。

少なくとも今の状況をとりあえず整理しようと思えるくらいには、冷静に戻れたようだった。

## 第一話：蜘蛛女と辞世の句

美人な蜘蛛のお姉さんの傷が完全に塞がり、目の前で寝息を立ている。

よく見ると、怪我だけではなく、服についた血も跡形もなくなっており、拳句の果てに、破けてた服まで直っているようだ。

周りを見渡したが、やはり誰もいないようだ。

複雑にねじ曲がり、たがいに絡みあっている異常に大きな木々がみえるだけだ。

しばらく観察すると木の間を駆け抜ける影を見つけたが、どうもウサギっぽいものらしく、こちらに害意はないようだ。

ウサギっぽいものというのは、頭のとっぺんが鱗でおおわれて帽子みたいになってるから、ぽいものって表現しただけで、帽子ウサギって呼んだ方がいいかもしれない。

まあ、明らかに地球産ではないね。

3mくらいの高さにジャンプできるみたいだし。枝から枝に飛び移ってるし。

それから、時たま遠くから悲鳴とも鳴き声とも分からない音が聞こえてくるが、ここは安全な場所なのだろうか？

帽子ウサギがうるついている間は大丈夫かな？  
明らかに捕食される側みたいに見えるし。

それにしても俺に何が起こっているんだ？  
意味がわからない。

とりあえず異世界であることはほぼ確定だろう。

自称神様の言うことを信じるなら、異世界に召喚されたことになる。

召喚事故って言うてたからには、このお姉さんはそのせいで怪我をしていた可能性が高いかな。

そして、祝福ポイントとやらを払ったから自称神様が彼女の怪我を治してくれたみたいである。

祝福ポイントってなんだ？

経験値みたいなものなのかな？

召喚事故されたからって訳のわからん理由で数奇の女神と嘲笑の邪神とやらが勝手にしてくれて、怪我の治すのに博愛神とやらに無理やり払わせられた感じだけど…。

博愛なら対価とらずに勝手に直せよと思うのは俺だけではないはず

だ。

その時ついでに博愛さんからは、無意識接触属性とやらも俺にプレゼントしてくれたようではあるが…。

しかし無意識接触属性っていうのも意味分らない。

チートな主人公属性か？

本当に異世界召喚とやらを本当にされたんだったら、そのくらいもらってもいいはずだよな？

誰かに聞けば分かるかな？

この美人な蜘蛛のお姉さんが教えてくれると嬉しいんだけど…。

それから、ここが異世界だとして、元の世界には帰れるのだろうか？  
できればテスト期間が終わった夏休み前ぐらいを希望したい。

調べなくてはならないことで山積みだ。

さて、これからどうしようか？

「うう〜」

美人な蜘蛛のお姉さんから呻きが聞こえてくる。

目鼻立ちの整ったいわゆる典型的な褐色美女には、似つかわしくな

いかわいい呻きだ。

少し心がいやされて、心が落ち着いてくるのか自分でもわかる。

これからは”蜘蛛女さん”と、さん付で呼ぶことにする。

褐色の肌に黒髪。スツとした鼻に、そして、先ほど見つめてきた？  
時に見えたくりっとした緋色の目。

やはり蜘蛛女さんはとても美人なお姉さんであることを改めて確信。

そしてなんといつても、ムチムチでボインボイン、それでいてしま  
るところはキュツとしまっているこのダイナマイトボディ！！

それにしても、すいかとは言わないけど、メロンくらいはあるぞこ  
れ！！！！

もみもみ。

うん???

もみもみ。

えええええ！！！！

あ…ありのままに今起こったことを話すぜ！

今俺は目の前の蜘蛛女さんが綺麗だなと思ったら、俺の右手はいつ  
の間にか蜘蛛女さんの胸を揉んでいた。

な…何を言ってるのか わからねーと思うが、俺も何をしているのか分からなかった。

頭がどうにかなりそうだった…

催眠術だとか、超スピードだとか

そんなチャチなもんじゃあ 断じてねえ

もつと恐ろしいものの片鱗を味わったぜ…

いかん、いかん。現実逃避してる場合じゃない。

意味が分からん。

いくら俺がむつつりとはいえ、寝ている女の胸を揉むとかあり得ない。

何が起こっている？

どうした俺？異世界召喚とやらで気が大きくなったのか???

モミモミ。

あっ。

どうやら蜘蛛女さんが目覚めたようです。人も殺せそうな鋭い殺気です。堅気の俺でも分かります。

申し訳ない。父上。母上。あなたの息子は、高校生にして立派な犯罪者になりました。

蜘蛛女さんが引きつった笑いを見せながら、俺の頭に手を伸ばしてくる。

もしかして、撫で撫でか？褒められるのか？セクハラした俺を許してくれるのか？

ミシミシ。

蜘蛛女さんは、アイアンクローというプロレスの技で私に制裁を加えるようにしたようだ。

この世界にもプロレスってあるのかな？

「 s d d o i u o u a f a j j j a o j f a o j f a j o a  
i j o d i j f a o i j f a o j o a j o f j o a j o a f  
j f o j a s d f k f c z p v f j a d e i f j e i a o f j  
a o j j

美女がアイアンクローしながら喋ってくるのだけど何言ってるのかわからない。

やはり異世界なのか？

アイアンクローの力が半端ない！

俺の今の状況説明しようか？

立ち上がった長身の美女にアイアンクロー状態で無理やり持ち上げられて、足浮いてます。

女の細腕なのにめっちゃ力強い。

絶対に異世界決定だな！

さつきから、謝っているんだけど言葉も通じないし。

俺、命の恩人だよ！！おそろく！！何が起こったか自分でもわからないけど…。

まあ、眼が覚めたときに胸揉んでる男がいたら、普通は犯罪者だと思っよな。

少なくとも命の恩人とは思わないかな。

牢屋ではなくあの世に直行させられそうな勢いだな…。

セクハラ行為で返りうちされた場合って、天国に行けるのかな？

まあ、嘲笑の邪神という訳分からん存在がいるんだから、セクハラ  
の邪神とかも居てもおかしくないし天国行きは大丈夫だね。

邪神が天国にいるか分からないし、そもそも脳内神様かもしれない  
けど…。

「 f j a p u j j . j p f j a p o f j p j p j f p a j k  
a k p o k a f p j o f p o j f a p o j f a p f j a i f j  
j p a o f j a i o p d j f p j a f p j . j k p a o j k  
」

何言ってるんだろ？

とりあえず俺の頭がい骨が限界みたいだし、さつきの脳内神様に喋  
れるようにしてもらえないかな？



あの怪我治せるんだったら、大丈夫だよな…。  
大丈夫のはず…。

” 藤沢章の願いに言語神から返答がありました。

藤沢章が妄想漏洩属性の付加を了承するのであれば、祝福ポイント50で公用語ドーマ語スキルを付与してくれるようです。”

「OK OK！何でもいいからそれお願い。

早く謝らないと、俺の頭が持たない！！！」

” 藤沢章の願いを受諾しました。

藤沢章に公用語ドーマ語スキルが付与されました。

対価として、藤沢章に言語神の妄想漏洩属性が付加されました。さらに対価として、藤沢章は祝福ポイント50を支払いました。藤沢章の合計祝福ポイントは、50ポイントになりました。”

「で、最後にいい残すことはあるかい？」

最初に理解した異世界言語は死刑宣告でした。

言葉が分かれば、人間だれしも分かりあえるよな？

彼女が人間かどうかはまだ分かんないけれど…。

## 第二話：二人の美人と三角関係？

絶賛取り調べ中のいたって普通のむつつり高校生藤沢章17歳だ。

美人のお姉さんとマンツーマンでお話できる日が来るとは…。

なんかこれだけで異世界召喚とやらをされただけの価値あるな。

まあ、お姉さんというより姉御って感じなんだけどな。

子分が20人くらいいいそうな…。

そのせいか、加奈さんには、どうしても丁寧語で話してしまう。

あっ、加奈さんっていうのは、蜘蛛女さんの名前らしい。

本名は、加奈・ヴァレンダン・夏目って名前らしいからそう呼ぶことにした。

なんか日本人のハーフみたいな名前だな…と思ったら、大和国人の父親と蜘蛛族の母親の子供らしい。

大和国って…。

それとやっぱり蜘蛛の足ってことになるのか。

まあいいや。今はそんなことよりハスキーボイスな姉御と重要なお話し中だ。

「で、あんたは異世界から来たと…」

「たぶん」

「確かに、この携帯とやらはみたことないし、服装も変わっているけどね…」

「なんでここにいますか理由分かります?」

「おそらくそいつが召喚したんだろね」

「そいつ?」

「あんたが椅子にしてる女だよ」

えっ。

何を人聞きの悪いことを…。

紳士な俺が女性を椅子にしているだと…。何を馬鹿な…。

あっ!!

確かに何かある!!!

やけに地べたにしては座り心地がいいと思っていたが、何て高度な

変態プレイをしていたんだ。  
普通の高校生には早すぎるプレイだ…。  
母上に知れたら半年は小遣いなしになるレベルの不祥事だ。

まあ、気が動転していたし、不幸な事故ということであつづぶせの女性？の人には許してもらおう。

黒いローブ羽織っているから性別分からないけど…。確かに言われてみれば、柑橘系の香水か何かの匂いがするし女だろう。

黒いローブ？

そう、黒いローブだ！

地面と似た色のローブを羽織っているのも悪いはずだ。  
そういうことにしておこう。

とりあえず、ひっくり返してあげようか。

地べたに口づけはかわいそうだ。

そうすれば、貸し借りのプラスマイナスはゼロになるはずだ。

ローブを持ってひっくり返す。

どうやら、スレンダーな女性であることが分かる。

スレンダーってのは、軽いから判断したんだよ。

決して、とある部位を触ったわけじゃないからね…。俺紳士だから！  
しかし、ずいぶんとぶかぶかなローブきてるな。誰かのお下がりだろうか？

まあ、取りあえず分かったことは、異世界人だからって、体重が重  
いってことはなさそうだ。

力は遥かに強かったけど…。

未だにこめかみがジンジンする。  
アイアンクローから解放されてだいぶ経つんだけどね…。

とりあえず、椅子の女は俺と同年代くらいの少女であることも分かった。

透き通る白い肌。ローブから覗く真っ赤な髪。細身でそこそ長身の少女だ。

加奈さんみたいな蜘蛛の足は生えてないみたい。

ローブ羽織ってるから、しっぽとかあっても分かんないけどね。

少なくとも猫耳はなかった。残念ながらな。

なぜわかるかって？

そら紳士としては頭のフードくらいは、いったん取って確認しますよ。

だって異世界ですから。

夢見たっていいじゃないか！

まあ。フード取って分かったのは、美少女だと言うことくらいだ。異世界で会った二人が二人とも美人って異世界に来てよかったな。それとも自称神様が主人公補正でもくれたのかな？

とりあえず少女の容姿をじつと観察。紳士的に観察。

真っ赤な髪とピンクのかわいい小さな唇に小さなつんとした鼻、おそらく相当もてるだろう。

異世界のかわいい基準は分からないが、地球では100人いたら99人はかわいいと言っだろう。

100人といわず99人にしたのは、知り合いに1人かなり偏った趣向の友人がいたからで、特に深い意味はないけどね。

あと、メチャメチャでかいサングラスをかけたメチャメチャ怪しい少女であることも分かった。

なんで、こんなでっかいのつけてんだ???

流行ってるのかな？

それとも芸能人だったりするのかな？

異世界センスは理解できんな？

モミモミ。

しまった〜!!

まただ。

また、いつの間にか揉んでいた。

何をとは言わないが、加奈さんより少し自己主張の足りないぶんくらみを揉んでいた。

どうしたんだ俺!

なぜだ!!

いつから俺は紳士をやめたんだ!!

ムツツリ道をいつのまに踏み外していたんだ！！！！

「あんだ、もしかして博愛神の無意識接触属性持ちかい？」

混乱している俺に蔑んだ目を向けながら加奈さんが質問してくる。

「えっ、知ってるんですか？」

加奈さんの治療の対価に無意識接触属性を付加させろって、突然頭に声が響いてきて…。

何なんですか、無意識接触属性って？」

「そうかい。あんだが直してくれたのかい。ありがとよ」

加奈さんが目を見開いたように見えた。  
何をそんなに驚いているのだろう。

「いえいえ。困った時はお互い様です」

「あんだ…、かなり変わってるね。」

私の体見ても何の思わないみたいだし…。」

体????ダイナマイトボディのことか????

俺は紳士だからな。

それとも、もしかして背中に生えてる大きな蜘蛛の足のことか？  
多少の欠点など美人ということの前には、些細なことだ。  
むしろ、欠点があった方が可愛く見いたりする。

「美人は正義だ!!!」

イカン思わず大声出してしまった。

いつもなら、心の中で叫んでるだけなのに…。  
やっぱり異世界補正で、気が大きくなってるのかな…。気をつけないと。

「そ…、そうかい。何がいいたいのかよく分からないが…」

なんか、加奈さんが若干引いてるような気がするが…、気のせいだよな？

気のせいだと言ってくれ…。

「そっぴや、無意識接触属性のことだけど…」

微妙な空気に耐えかねたのか加奈さんが話を戻す。



「いつの間にかセクハラしてしまつ属性だよ…」

えっ？

セクハラ属性???

何だそれは???

異世界召喚された主人公に与えられる特別でチートな属性じゃないのか???

### 第三話：主人公属性の解明

「加奈さん。も、もう一度言ってくれませんか？」

異世界召喚のせいで、耳が悪くなっているみたいで…」

なんかセクハラ属性って幻聴が聞こえてしまった…。

異世界召喚って怖いな…。

「無意識接触属性っていうのは、いつの間にかセクハラしてしまう属性だよ…。」

属性が発動する条件や効果は、個々で違うみたいだから、細かいこと知りたければ、知りたいって願えば答えてくれるよ」

な、何だと…。

聞き間違えではないのか…。

セクハラしてしまう属性だと？

何だそれは???

異世界召喚されたし、俺は主人公ではないのか???

しかも加奈さんが知ってるってことは、この祝福ポイントとやらも誰でも利用できるシステムみたいだし…。

どうやら脳内神様でも自称神様でもないらしい。

「いや落ち着け、俺！

むしろこれは、ハーレム属性の可能性がある。

ニコポやナデポみたいな！

そう、それに違いない。

そうたる神様！！

そうと言ってくれ！」

” 藤沢章の質問に博愛神から返答がありました。

藤沢章に付加されている無意識接触属性とは、女性をかわいい又は綺麗だと思ったときに、女性特有の部位をいつの間にか撫で回してしまう属性であり、相手への洗脳効果は、一切含まれておりませんとのことです。”

無情なアナウンスが頭に響いてきた。

なに〜！！！！

かわいいって思った瞬間に撫で回してるとか。

女性特有の部位って…。

町を歩けないじゃん。

終わった…。

ギルドで登録して冒険無双とか夢想してたのに。

町にすら入れない俺って…。

いや、まだだ！

まだ、希望がある！！！！

もう一つの言語神の妄想漏洩属性とやらだ。

おそらく妄想したことが現実になるという嬉し恥ずかしのとんでも

属性に違いない。

そうだ。

きっとそうだ。

異世界召喚された主人公に、最もふさわしい属性だ。

俺 True できるし、オリジナル技だってやり放題。

18禁の小説だったら、あんなことやこんなこともできるパーフェクトな属性だ

「言語神妄想漏洩属性発動！！

藤沢章が命じる。

炎の精霊よ。我が右手に集え！

ファイヤーブレイカ　！！！！！！」

びゅん！

とりあえず右手の空を切る音がしたただけだった。

ぞ、属性が合わなかったのかな？

ほら俺って氷の冷静さを持つてるし！

「言語神妄想漏洩属性発動！！

藤沢章が命じる。

氷の精霊よ。我が願いをかなえよ！

アイスプリズン！！！！」

リン、リン。

あつ、鈴虫っぽいのが鳴いてるみたいだね、この森。

それとも俺が今操ったのか？

精神操作系か？

あり得る。

そうなのか神様！！！！

”藤沢章の質問に言語神から返答がありました。

藤沢章に付加されている妄想漏洩属性とは、考えていることを思わず喋ってしまう属性とのことです。

妄想している場合に高確率で、口から洩れてしまいます。

しかも、妄想が増大されるという特典付きとなっているようです。

また、妄想が実現することは一切ないので気をつけるようにとのことです”

なに〜！！！！

もう一つも役にたたないどころか、害にしかならない属性だった。

しかも妄想増大って…。

なんか今までだったら絶対思いもしないようなことまで口走ってる

もんな…。

加奈さんも軽蔑から憐れみの表情になってるし…。

どうやら妄想漏洩属性についても知ってるみたいだ。

まあ、さっき思いつきり妄想口走っちゃったし、こんな訳分からん属性あったらみんな知ってるだろうしね。

よく考えれば、対価として付加されたんだから、役に立つ属性なわけないよな…。

数分前の浮かれてた俺を殴ってやりて。

それにしても、神様は、なんでこんな意味分からん属性作ってんだ？理由分かったところで俺には関係ないだろうけどな…。

は…。

**第四話：召喚事故と赤髪少女（前書き）**

すいません。

四話と五話分けました。

## 第四話：召喚事故と赤髪少女

「落ち着いたかい？」

しばらくして、加奈さんが声をかけてくれた。  
いじけた俺の精神が回復するのをしばらく待っていてくれたらしい。  
さすが姉御だ。

「はい。なんとか。」

そういえば、なんで怪我してたんですか？」

とりあえず、話題を変えようと思って切りかえす。  
これ以上精神に負担をかけたなら鬱になりそうだし…。

召喚の失敗で怪我してたんだと思うけど、もし敵がいるんだったら、  
危険だしな。

「そのお嬢ちゃんが私に向かって祝福召喚をかけてきたんだよ。  
普通、召喚つてのは、何も無い空間に向かってするんだけどね。  
まあ、時空のひずみか何かで体が裂けたみたいだね」

ええええ！！

新たな事実判明。

赤髪美少女が加奈さんのいる場所へ故意に俺を召喚したせいで、怪  
我をしていた???



召喚の失敗じゃなかったのか???

それにしても加奈さん殺されかけてたのにノリ軽いな。  
異世界では常識なのか???

「召喚って危険なんですね」

「普通はそんな使い方しないよ。  
召喚には祝福ポイントもかかるし、特に異世界からの召喚なんてかなり対価を払わされるだろうからね。  
普通の攻撃魔法なら、一度覚えれば祝福ポイントもいらぬし、対価の要求もないし、そっちの方が遥かに効率がいいはずなんだけだね」

なるほど。

普通の魔法もあるらしい。  
俺も使えたりするのかな。  
どうやって覚えるんだろ。

俺、実は魔力無限だったんだとかだといんだけど…。  
異世界召喚された物語の主人公としては、そのくらいあってもいいはずだよな…。  
何もなかったらただのセクハラ野郎だよな…。

いかん。 いかん。

これ以上考え込んでたら、また凹みそうだから、やめて話を続けるか…。  
妄想増大されるみたいだし…。

「どうして召喚魔法かけてきたんですか？」

「知らないよ。会ったのも初めてだし、私が聞きたいくらいだ」

「どうやら加奈さんと赤髪少女は知り合いではないらしい。」

「それにしても危険な世界だな…。」

「見知らぬ他人が突然攻撃してくるとか…。」

「そういえばあんた行く所ないだろうし、うちに来るか？  
ここがどんな世界か知つといた方がいいだろう？」

「加奈さん、なんていい人なんだ。」

「いつの間にかセクハラも許してくれたみたいだし。」

「はい。お願いします」

「じゃあ、そのお嬢ちゃんを私の家まで運ぶの手伝ってくれないかい？」

「え？」

「赤髪少女を加奈さんの家まで運ぶの？」

「何のために？」

「殺されかけたの…？」

「殺されかけたのに、大丈夫なんですか？」

「ああ、ちょっとお嬢ちゃんにやって欲しいこと思いついたからね  
…」

加奈さんが舐めまわすように赤髪少女に視線をそわす。

加奈さん…。目が怖いです。

何させるつもりなんですか…。

もしかして俺ついてく人間違えてる？

## 第五話：祝福ポイントの取得方法

赤髪少女を抱っこした加奈さんに、後ろからついて行ってるだけの藤沢章だ。

ちなみに今、腹部を打撲している状態だ。

RPG風にいうと腹部異常状態である。

なぜ、腹を打撲したのかというと例の問題属性のせいだ。

初めは、俺が赤髪少女背負ってたんだ。腹部も異常なしでね。

いくら俺の方が加奈さんより力が弱いとはいえ、俺は男でその上紳士だから当然だろ。

俺が一人で運びますって力強く宣言したよ。

そして加奈さんの制止を押し切って背負ってたんだ。

でも、今までの人生で、こんなかわいい子背負うことなんて妄想の中でも経験したことないわけだ。

最初は、俺も何も考えないように努力したよ。

例の属性あるしね。

5分と持たなかったけどね…。

耳元に美少女の息がかかるし、背中に胸は当たるし…。

その上、かわいい寝言が聞こえてきたら、普通の奴はかわいいなっ

て思うよな。

紳士としてかわいいなって思うくらい当たり前じゃないか!!

そしたら、ロープの上から赤髪少女の太もも当たりを持っていた俺の手が、いつの間にか、彼女のお尻の方へ移動していたんだよ。柔らかいお尻へね。

背中に背負ってて赤髪少女は見えななかったから大丈夫だと思ったんだけどな。

どうやら無意識接触属性は対象が見えてなくても、かわいいと思っただけでも発動するみたいだ。

最初から、きちんと説明しとけよな。

まあ、しまったと思った瞬間、加奈さんにボディブローくらったけどな。

パンチが消えるって初めて体感した。

さすが異世界。

加奈さんは力が強いだけじゃないみたいだ。

それと、無意識接触属性で撫でまわしてしまう”女性特有の部位”っていうのは、胸だけでなくお尻も含まれるというのが分かったことも今回の失敗の収穫としよう。そうしよう…。

何事もポジティブにとらえないとね…。

木、木、草、草、ときどき魔獣。

暇だ。

魔獣とエンカウトしても加奈さん見たらすぐ逃げてくからね。

でも、俺一人だと襲われるだろうね。

特に狼のおっきいのかかなりやばそうだったし…。

それにしても、後ろからついてくだけって暇だな…。

今のうちに加奈さんにこの世界について質問しておこうかな。

「そついえば、祝福ポイントってどうやれば貰えるんですか？」

とりあえずこれは聞いておかないとね。

なんたつて大怪我も治せる便利ポイントみたいだからな！

数奇の女神と嘲笑の邪神からは、訳わからん理由でもらったが。

異世界召喚と召喚事故だったかな…。

祝福ポイントもらったために、大怪我するわけにはいかないだろうし…。

召喚された俺にはポイントくれたけど、加奈さんの話だと召喚した

赤髪少女は逆に召喚ポイント使ったみたいだしね。

前方で、赤髪少女に当たらないように木の枝を器用に避けている加奈さんが答えてくれる。

「行動が神様に気にいられると貰えるよ。  
毎日泳いでれば水の神からポイントがもらえるし、毎日畑を耕していたら土の神からポイントがもらえる。  
大陸の周りを泳いで一周した奴は、200ポイント水の神からもらったって噂だよ」

うーん。

神様が行動を気にいるともらえる？

つまり、異世界召喚されたことを数奇の女神が気に入ってくれて250ポイントくれたのか。

そして、嘲笑の邪神が召喚事故を気にいって50ポイント。

逆に、召喚したいとか、怪我治したいとか神様をお願いするとき祝福ポイント払うってわけか？

でも、嘲笑の邪神って悪趣味だよな。

まあ、邪神っていうくらいだから仕方ないか。

それにしても泳いで大陸一周してたったの200しかくれないのか。

まあ200で命にかかわる大怪我治してくれたわけだから、そんなものなのか？

もしかして、俺の貰った300ポイントって結構なポイントだったのか？

「召喚された時300ポイント貰えたんだけど、それって多い方ですか？

今は、50ポイントしかないけど…」

「300？

一回で300はあり得ないくらい多いね。

まあ、私も神様の考えてることはよく分かんないけどね。

もしかして、250は私の怪我を治すのに使ってくれたのかい。

悪かったね」

加奈さんが申し訳なさそうにこちらを振り返る。

思わずかわいいと思ってしまっ。

そう思ってしまった。

「いや、50はドーマ語を話せるようになるためですよ」

カッコつけて視線をあえて外して返答したが、俺の右手は加奈さんの胸をしっかりと捕らえていたようだ。



当然、本日二度目のボディーパーを頂くことになった。

は〜。

沈黙が気まずい…。

実は、あれから何発か殴られました。

なんで殴られたのかっていうと、加奈さんの家に行くから加奈さんについて行っていたわけで、美人さんと一緒に歩き慣れない俺としては、横に並ばず少し後ろを歩いてしまう訳です。

すると当然、加奈さんの横顔が見えるわけです。

すると当然、かわいいと思ってしまう訳です。

すると当然、お尻に手が伸びてる訳で…。

すると当然、見えないパンチが飛んでくるわけです。

あれだけ殴られてもなんとか歩けるってことは力を加減してくれてるってことかな。

結局、今は加奈さんの前を歩いてますけどね。  
加奈さんに歩く方向を指示されながらね…。

最初からこうしとけば、無駄に殴られることなかったな…。

まあ、今までの紳士な俺では決して味わえなかった幸福を得られたからよしとしておこうか。

今でも心だけは紳士だけどね。

それにしても獣道っぽいものしかないんだけど、加奈さんどんなとこに住んでんだろ？

しかも、もうかれこれ2時間以上歩いてるよ。  
現代日本人にはきついな。

こんだけ歩いたんだから、山の神さんあたり祝福ポイントくれないかな？

というか、神様って何人くらいいるんだろ？

神だから何人じゃなくて何神か？

しかし、この悪路の中、加奈さん赤髪少女をずっと抱っこしてよく疲れないな。

俺は普通に背負ってたんだけど、加奈さんは抱っこしてるから、相当疲れる持ち方だと思っただが…。

まあ、あの赤髪少女はなぜか加奈さんに恨みを持つてるみたいだから、背負っていて後ろからグサツてやられると困るから仕方ないけど。

一応、抱っこする前に、手を糸で拘束してたみたいだね。

そっいえば、あの糸ってどこから出したんだろ??

縛る時、俺に後ろ向けって言うてきたけど…。

糸。加奈さん。蜘蛛。

はっ！

「糸はお尻から出せるのか!!!」

叫び終わるとほぼ同時に後頭部に衝撃が来た。

おそらく後ろにいた加奈さんだろう。

意識を失うすぐ直前に頭にアナウンスが響いてきた。

” 藤沢章の格上相手への挑戦を観測しました。

戦の神より祝福ポイントが1ポイント藤沢章に付与されました。

藤沢章の突っ込みで失神を観測しました。

笑いの神より祝福ポイントが1ポイント藤沢章に付与されました。

藤沢章の合計祝福ポイントは、52ポイントになりました。”



## 第五話：祝福ポイントの取得方法（後書き）

少し分かりづらいと指摘頂いた箇所を、本日（12/24）の午後九時ごろブログからこの話まで改訂しました。  
ご迷惑おかけしました。

## 第六話：世界の理と猫耳娘

「知らない天井だ」

これ一度言ってみたかったんだよな。

何しろ異世界召喚された主人公（希望）だからな。

例えベットではなく床に転がされていたとしてもね。

それにしてもさすが加奈さん。

人を二人抱えて家に帰ってきたってことだよな。

恐るべし異世界人パワー。

とりあえず上半身を起して伸びをする。

少し腰が痛い…。床だもんな。

することないのでとりあえず部屋を観察。

どうやら半円系の部屋らしい。

木でできた壁に、くり抜いただけの窓。

丸い半円状の壁の木には継ぎ目がないってことは、大きな木のウロを家として使っているみたいだ。

さすが異世界。

床には木の板を敷き詰めてるみたいだね。

それから、木製のテーブルと二つの椅子。

椅子の片方は子供用に見える。  
かわいいピンク系の座布団だから女の子だろう。  
それも小学生高学年くらいのも…。

加奈さんってもしかして大きな子供がいるのか？

20代前半に見えたけど…。  
いや、妹に違いない。

美人姉妹か。  
響きがエロいな。

そのとき、窓際のベッドの掛け布団が動く。ベッドは赤髪少女が占  
拠していたようだ。

まあ、女の子がいるんだからベッドは当然そっち優先だよな…。  
例え紳士とはいえ、同年代を同じ所で寝かせるのは問題だしな。

立ち上がって紳士な視線をベッドに向けると、かなり大きなダブル  
ベッドであることが分かる。

枕が二つあることから姉妹で寝てるんだろう。

そんなに広い家ではなさそうだしね。

「起きたのかい？」

ベットの方へ歩いていると、後ろから急に声をかけられた。

隣の部屋にいた加奈さんが入ってきたようだ。

やましいことはないのに動揺してしまったではないか。

ただ、赤髪少女が美少女のままか確認しようとしただけなのに…。  
ほら、異世界の摩訶不思議現象で変化する可能性もあるからね。

加奈さんが椅子に座ったので、了承を取ってベットに腰掛ける。

赤髪少女が目を覚ますまで、加奈さんにこの世界の概略をとりあえず教えてもらうことになった。

すなわち、ようやくこの世界に猫耳娘が存在するかどうか確認できるわけだ。



結論から言おう。  
いるらしい。

加奈さんの前だから平静を装っているが、かなり嬉しい。

どうやら遂に俺のターンが来たようだ。

しかも奴隷の猫娘も妖精族エルフもいるらしい。

金さえあればハーレムもつくれるらしい。

そして、ダンジョンもあって冒険者は危険だけど金の儲かる職業らしい。

加奈さんから異世界情報を引き出したところ、以上の有益な情報が得られた。

かなり回りくどく己の本心を察知されないように聞いたから、時間がかかったけどね。

本心とは何かって？

そりゃあ、ウハウハハーレム生活（猫耳娘あり）に決まっている。そんなこと加奈さんに知られたら鉄拳制裁されそうだからね。

まあ、なんでそんなこと聞くのか、途中でかなり疑いの目を向けられた気がしないでもないけどね。

うまく誤魔化せたはずだ。

これまでの俺の紳士な行動を見ている加奈さんなら、俺がやましい考え持っていないって信じてくれるはず。  
というか信じてくれないと困る。

この家追い出されたら、俺絶対野垂れ死にするだろうしね。

野たれ死ぬ前に魔獣に食われそうだけだ。

いつかとんでもない潜在能力が開花すると信じてるけど、今はただのセクハラ属性と妄想属性しか持ってないしな。

しかしそれにしても…。

猫耳娘が祝福ポイントで生み出された存在だったとは…。  
とんでもない事実を知ってしまった。

加奈さんが猫娘誕生秘話を聞かせてくれたのだ。

何でも昔は、いわゆる通常の人しかいなかったらしい。  
猫族も蜘蛛族も犬族も妖精族もいなかったとのこと。

しかし、5000年位前にドーマ帝国（今では、古代ドーマ帝国と呼ばれる）という巨大帝国が世界中を支配していった。  
その初代皇帝がとんでもない戦略家で、どうやら一代で大陸制覇を成し遂げたようだ。

その名残で、ドーマ語が公用語になっているとのこと。  
俺が言語神からもらったスキルもドーマ語スキルだ。

それが猫耳娘とどう関係しているのかって普通は思うだろう？

俺もそう思った。

だが、どうやら祝福ポイントとは世界の理にも影響を与える力があるようだ。

つまり一人が願っても祝福ポイントは少ないし、払える対価も最大でも一人分の命であるため大した奇跡は起こせない。

しかし、多くの人が集まればどうだろうか？

古代ドーマ帝国の初代皇帝はそう考えたらしい。

そして、それが正しいことが証明された。

六割以上の人が同時に願えば世界の理すら変えられる。

六割というのは、例の脳内神様が世界の理を変えたときに六割超えたからと理由を述べたかららしい。

古代ドーマ帝国の一番の功績がそれらしい。

ここで、猫耳娘の話に戻ってくる。

つまり、古代ドーマ帝国の初代皇帝は、多くの人が猫耳娘の存在を全人類が同時に願うように御触れを出したのだ。

同志よ！！と一瞬思ったがどうも少し違うらしい。

違う点っていうのは、別に猫耳娘だけを願ったわけではないという点だ。

実は、古代ドーマ帝国の初代皇帝には、イケメンと美女の幼馴染がいたらしい。

頑張つて国を起こして拡大していったらしいんだけど、幼馴染の美女は全然振り向いてくれなかったようだ。

で、『大陸統一したよ』とその幼馴染二人に報告に行ったときに、二人から『結婚します』って、逆報告受けたんだって…。

悲しいよね…。

それに怒り狂った皇帝さんが、美男美女であるほど、異形な人外と融合すべきだと扇動したらしい。

アホだね…。

何やってんだ、皇帝にまでなつて…。

そう思つたのは俺だけではないはず。

ちなみに表向きの理由は、イケメンと美女が他の人に比べて、神様からの祝福を受けすぎている気がするから、神様が誰に祝福ポイントを与えるかを顔で決めないように、美男美女は人外と融合するべきだという主張らしい。

完全な妬みだね。

よく世界中の6割もの人が納得したよな。  
しかも一人10ポイントも使ったらしいし。  
脅したのかな？集団心理は怖いからなあ…。

とりあえずまとめると、

超絶美男・美女は、昆虫系や軟体動物系の魔獣（蜘蛛やスライムなど）と融合しろ。

かなりの美男・美女は、獣系の魔獣（猫や犬など）と融合しろ。  
そこそこの美男・美女は、精霊と融合しろ。

という願いだったらしい。

ちなみに精霊と融合したのが、妖精族<sup>エルフ</sup>って呼ばれてるらしい。

えっ、じゃあ、通常人（融合してない人種をそう呼ぶらしい）には  
美男美女いないの？

って思ったんだけど、5000年も前のことだからね。

美人の子供が美人とは、限らないし。

フツメンからイケメンが生まれることもあるから、今では必ずしも  
そうではないらしい。

ただ、異形種（融合した人種をそう呼ぶらしい）は比較的美男・美  
女ぞろいらしいけどね。

加奈さんも美人だし！

今では、この皇帝、横恋慕皇帝って呼ばれていて、その辺の子供で

も知っているみたいだ。

とりあえず、世界中の誰が馬鹿にしようが、俺だけは彼に敬意を表したい。

貴様は天才だ。

そして、猫耳娘をありがとう。

**第六話・世界の理と猫耳娘（後書き）**

**【次回予告】**

**必殺技の取得方法**

## 第七話：必殺技に至る道

祝福ポイントに大きな可能性を見出して、テンションMAXの藤沢章だ。

通貨やら風習やらと他にも加奈さんに聞かなければならないことはたくさんあるが、あと一つどうしても先に聞いておかなければならないことがある。

そう、魔法だ。

だってそうだろう？

折角の異世界だ。これを聞かねば始まらない。

ハーレムでウハウハ、俺Tueeするためにもね。

だって加奈さん見てて分かったことだが、どう考えても体力的には無双不可能。

格闘技の経験もないしね。

じゃあ、残るは魔法しかない。

という訳で、加奈さんに聞くことにする。

「魔法ってどうやって覚えるんですか？」



「うん？魔法かい？」

魔法もスキルの一種だからね。

光、闇、火、水、土、風の神様を6大精霊神って呼ぶんだけど、6

大精霊神に関係するスキルを魔法って呼ぶだけだよ。

だから、それも祝福ポイントで覚えられる。

精霊と妖精族は、もともと使えるけどね…。

使いたい魔法を願えば、魔法を取得できる。

一度取得した魔法は、制限がなければいくらでも使えるようになるのよ」

「じゃあ誰でも魔法使えるんですか？」

「誰でもってわけじゃないね。

普通の生活してる分には必要ないからね。

魔法の取得ポイントは高いし、普通の人は、裁縫スキルとか料理スキルとかにポイントを使ってるよ。

私みたいにね」

えっ？加奈さんが普通？異世界の人は超人だらけなのか？

疑問が顔に出たのか加奈さんが話を続ける。

「まあ、私の場合長いこと山の中で一人で生活してたから、多少身体強化にもポイント使ったけどね」

なるほど。それですばいのか。

ってことは、俺も身体能力無双できるのか？

「どのくらいポイント使ったら加奈さんぐらい強くなれるんですか？」

しばらく考えてから加奈さんらか返答がある。

「うーん。あなたには無理だろうね。

私は蜘蛛族だから元々身体能力高いし、身体能力の強化にかかるポイントも少なくて済むからね。

通常人には無理だと思うよ。あなたは異世界人だけど、通常人と体力的にも変わりなさそうだしね」

ポイントが少ないってどういう意味だろうか？  
人によって違うのかな？

「必要なポイントって同じスキルでも違うんですか？」

「そうだよ。

私は蜘蛛族だから、戦いの神には気に入られていて、それに関係するスキルの取得にかかるポイントは少ない。

けど、火の神には嫌われているせいかわりに火に関する魔法の取得は難しい。

取得するためのポイントが高すぎてね。

通常人の場合は、どれも平均的な覚えやすさだけだね。

異世界人は分からないけどね…」

なるほど、種族によって覚えやすいスキルとそうでないスキルがあるのか…。

ポイント少なくて、強力なのがいいな…。

異世界人って何が得意なんだろう？

「なんだい？もしかして、あんた冒険者になるつもりかい？やめときな。」

毎日知り合いが一人は死んでいく危険な職業だよ。こついつちゃんだけど、あんたにその才能があるとは思えないしね」

「うーん。でも、知り合いいないし、加奈さんの所でずっとお世話になるわけにもいかないですしね…。」

それに普通の職業でも一つぐらい攻撃スキル持ってないと危険そうじゃないですか？」

見知らぬ他人がいきなり攻撃してくるぐらいこの世界危険みたいだしね…。」

「そうかい…。」

しかし魔獣を倒せるぐらいの攻撃スキルってのはすぐに覚えられるわけじゃあないよ。

一人前の冒険者の使う攻撃スキルは約100ポイント、そこそ有名な冒険者は200ポイントくらいスキルにつき込んでるらしいね

…。

…。  
すまないね…。」

私を治すのに200ポイントも使わせちゃまって…。」

おー。また、ごめんなさいヴァージョンの加奈さんが見れた！

それにしても、200って結構なポイントだったんだね。

ここまで親切にしてくれるのは、そのためか？

いや、もしかしたら、そこまでの俺に惚れているかもしれない！！  
そうに違いない！！）【注意】妄想属性が発動しています）

まあ、必要経費と思って200ポイントくらい諦めよう。

異世界情報を一目でかなりゲットできたし、美人と知り合えたし  
ね！！

ポイントなんて、また貯めればいいしな！

とりあえずどのくらい時間がかかるのか聞いておくべきだな！

「祝福ポイントって貯めるのに、どのくらいかかるんですか？」

「一流になる冒険者は、1年かけて10ポイント貯めてるらしいね。  
もちろん、どのくらい神様に気に入られることをしたので、年数  
は変わるけどね」

一年で10ポイント？

そんなにかかるもんなのか？

しかし、そこそ有名な冒険者のスキルが200ポイントだから、  
20年か…。

いや、52ポイントあるから、後15年くらいか…。

普通にやっていたら、今すぐ、俺無双は難しそうだな…。

もしかして、15年間、ハーレムお預けか？

いやだ！！！！

異世界知識で何とかならんかな？

というか、その間、冒険者の奴ら何してるんだ？

「スキルを手に入る間、冒険者の人ってどうしてるんですか？」

「そりゃあ、冒険者だね。」

最初に、簡単で発展性のあるスキルを考えて、それを10年かけて強化していくんだよ。

そうすれば、ずっと冒険者をやれるし、スキルポイントも無駄にならないからね」

なるほどね…。

冒険者って、脳筋かと思ってたら考えてるんだね。

「もっと速く覚える方法ありますか？」

「そうだね…。」

逆に、スキルに多くの制限をかける方法があるみたいだね。

一年に一回しか使えないとか、10分間詠唱時間がかかるとか…。  
そういう制限をかければ、比較的小さなポイントでそこそこな強力なスキルを最初から覚えられるからね。

冒険者の場合は、そういう制限を最初にかけておいて、ポイントがたまったらポイントを使ってどんどんその条件を無くしていくって方法をとることもあるらしいよ。

どちらの方法が速く使いものになるかは、スキル次第だろうけどね」

一年一回って…。

まあ、命がかかった時の必殺技みたいな感じか…。

制限を取っ払えば、10年後か20年後には、何回でも使えるようになるわけだしね…。

「他に裏技見たいのあったりしますか？」

「裏技かい？」

神様に気に入られるって意味では、属性持ちになるって手もあるね。  
あんたの場合、博愛神の無意識接触属性と言語神の妄想漏洩属性を持って  
持っているから、博愛神と言語神に係るスキルはかなり取得し  
やすいはずだよ」

なるほど!!!

属性持ちだとそれ系の能力の取得ポイントが少なくて済むのか!!

いいこと聞いた!!!

でも、博愛神と言語神って攻撃スキルとかあんのか???

「博愛神と言語神って攻撃スキルってあります?」

「直接攻撃スキルは、余り聞いたことないね。」

博愛神の属性持ちで有名なのは、昔いた伝説の神父兼冒険者のガレニア・レバンドフスキーの拳闘友愛っていうスキルが有名だね。

何でも半径100メートル以内に存在する武器がすべて破壊されて、攻撃スキルもすべて無効化されるとんでもないスキルだったらしい。殴りあいでも分かり合おうとした変わった神父らしいね。

まあ、その神父はライオン族の獣人だったから何とかなるスキルだけど、あんたが使っても殴り倒されて終わりだろうけどね。」

博愛神使えね。」

そいつが一番有名ってことは、他の奴らはそれ以下のスキルってことか?」

まあ、博愛神なんだから攻撃スキルあつたら困るよな…。

「他にいます?有名な人」

「他にかい?うん。」

確か50年くらい前に、言語神の属性持ちで確かアマラカス闘技場で序列3位までいった男が居たらしいね…。

名前は忘れたけど…。」

闘技場で序列三位だと!!!  
それは期待できる!!!

「どんなスキルだったんですか？」

「人格口撃と精神的<sup>トリスピク</sup>外傷口撃だったかな？

詳しくは分からないけど、一対一では無敵だったらしい。  
ただ、一度に一人にしか使えない制限があるらしく喧嘩は弱かった  
ようだね。

闘技場では最強だったらしいが、そいつが一位になる前に観客から  
反対運動が起こって首になったけどね」

な、なるほど…。

微妙だな…。

まあ、口撃っていうくらいだから、悪口言うだけの能力なんだろう。  
トラウマえぐるような…。

格闘技見に来て、マイクパフォーマンスで決着が着いたらそら観客  
怒るよな…。

というか、そいつ何のために闘技場行ったんだ???

「そうそう、6大精霊神の属性の付加はやめておきなよ。

6大精霊神の属性は、全て10年以内に死んでしまうからね。

例えば、火の神の灼熱属性は、属性持ちになってからちょうど10  
年後に体が燃え尽きって効果があるからね。

代わりに、少ない祝福ポイントで強大な火の魔法を覚えられるらし  
いがね」



ええええ!!!

燃え尽きるって…。

そこまでして、俺T u e eはしたくないな。

聞いたいてよかった。

知らなかったら、灼熱属性なんて、もろ主人公が持つてるような名前の属性だから無条件でOKしてたよ。

もしかして、俺のセクハラ属性と妄想属性はましな方だったのか？

「属性ってなんでそんなにマイナスなモノばかりなんですか？」

「さてね。神様の考えることは分からないが、人間がマイナス属性をあえて欲しがるってことは、それだけその神様を信仰してるって証になるからじゃないのかい。死をかけてでも欲しがるものは、特にね」

うーん。

納得できるような。できないような。

『いじわるしても信じてくれる人は、私を愛してくれてるってことね』ってことか??

なんか人間臭い神様だな…。

加奈さんがふとベッドの赤髪少女に目を移す。

「そこで寝ているお嬢ちゃんはおそらく火の神の灼熱属性持ちだろ  
うね」

えっ！

「この子が？」

「ああ。髪が真っ赤だろ？  
火の妖精族エルフならともかく、人間でそこまで髪が赤いのなら違くない  
ね」

マジでか…。

この子可愛い顔して、とんでもないものに手を出してるな…。

ヤンデレ化しそつだ。

俺のハーレム要員候補なのに大丈夫か？（【注意】完全な妄想です）

あつ、そういえば…。

「加奈さん。この子に何やらせよつとしてるんですか？」  
ふと思ったことを口にする。

「ああ、ちょっと街まで行って調べて欲しいことがあってね」

「調べて欲しいこと？」

「そうだよ。もしよかったら、あんたにも頼みたいんだけどね…」  
なんだろう？

なんか美人に頼まれるといやとは言えないよね。

「なんですか？俺に出来ることなら何でもしますよ！..」

「いいのかい？ありがとね..」

加奈さんが、一呼吸おいて話を続ける。

「実は、四日前に妹が攫われてね…。」

街にいるはずなんで、どこにいるか確認して欲しいんだよ」

ふむふむ。

妹が攫われたと…。

ええええええ!!!

攫われた???

妹が?????

なんか危険な臭いがぶんぶんするんですが…。

俺手伝って大丈夫か???

驚きでどう反応したらいいか分からず硬直していると、近くから声がした。

「その話、了承するわ!」

どうやら赤髪少女は、今まで寝たふりをしていたらしい。

赤髪少女がかわいいかどうかをもう一度紳士的に確認しておかなくて良かったと俺は切に思った。

第一印象が大切だからな!

特にヒロインとはね。

## 第八話：蜘蛛女と赤髪召喚少女

「その話、了承するわ！」

静かな部屋の中に凜とした声が響く。

どうやら赤髪ショート少女は、今まで寝たふりをしていたらしい。ベットに寝ていた少女が上半身を起こすと、布団がめくれ彼女が口を羽織っていないことに気がついた。

どうやらローブの下は、少女の赤い髪によく似合う淡い緑の服だったらしい。

それも非常に薄い布の…。

なんか加奈さんよりは小ぶりだけど、手のフィットしそくない感じの塊に視線が釘付けになってしまった。

しかも、手が糸で拘束されているので、紳士として少し背徳感も感じてしまった。

それにしても、こっちの世界もしかしてブラジャーないのかな？

「私も手伝ってあげる」

いかん。いかん。

加奈さんの妹の話をしているところだった。

鋭い視線をした加奈さんが、赤髪美乳少女に返答する。

「そっちの要求は？」

「吸夢草の種よ」

すぐさまそれに切り返す赤髪美乳少女。

なんか一人おいてけぼりをくらっている気がする。

俺を無視して、二人の応酬が続いていく。

「氷結属性かい？」

「ええ、そうよ。手に入る？」

「可能だとおもうね」

一時休戦状態に入ったのか、場を静寂が支配する。お互いの視線を外さすにらみ合った美乳美女二人。

完全に俺は空気のようにだ。

ところで、吸夢草ってなんだ？？

しかも氷結属性とやらも分からんし。

こつこつ空気苦手だし、聞いてみようかな？

「吸夢草って何なんですか？」

加奈さんが赤髪少女から視線を外さず答えてくれる。

「水の神の氷結属性を緩和するのに必要な植物だよ。

おそらく、お嬢ちゃんの家系の誰かが、お嬢ちゃん灼熱属性を緩和するための冷却魔法を取得したくて、氷結属性持ちになったってところかい？」

まじか!？

赤髪少女が否定しないってことは、加奈さんの推測正しいのか？  
家族そろって、とんでもないなあ…。

灼熱属性が体もえるってことは、氷結属性は体が凍るのか？

というか、赤髪少女って見かけによらず壮絶な過去持ってそうだなあ。

はっ!!!

てことは、彼女の家族を助ければ、彼女にすでにつ立ってるフラグを

回収できるチャンスでは！！

しかも、その家族が母親だった場合には、親子丼も！！！！

（【注意】完全な妄想です。フラグは一切立っておりません。）

いかんいかん。自分の世界に入っていた。

よかった。妄想漏洩しなくて。

でも、なんで自分で採りに行かないんだろ??

「なんで加奈さんに頼むんですか？」

「吸夢草は、私たち蜘蛛族にしか手に入れられない場所にあるからね」

蜘蛛族しか採りに行けない場所??

「手に入りにくいものなんですか？」

「ああ。トルマニアン帝国の王都近くでしか採れないからね。

しかも、ここトルマニアンに住んでた蜘蛛族は、30年前からトルマニアン人に迫害されてるからね。

そのせいで蜘蛛族は散り散りになってしまったし、わざわざ危険な王都近くまで取りに行こうなんて蜘蛛族はいないしね。

今買うとおそらく1億<sup>ガルト</sup>Gはかかるだろうね」

新しい事実判明！



ここは、トルマニアン帝国なのか…。

そして、通貨の単位はガルド。

1億ガルドってどのくらいだろ。億っていうからには、高そうだけど。

全然興味なかったから、聞いてなかったんだよね。

猫耳と必殺技に比べたら、重要度が落ちだしね。

それにしても、ここに住んでる奴ら、愛しのマイハニーである加奈さんを苛めてたのか…。

マジ許すまじ！！

こんなに美人なのに！

それにしても、こんな山奥に住んでた理由がそれか…。

なんで、他の国に行かないんだろ??

それにしても…。

「30年前に何かあったんですか？」

「…甲殻病だよ。」

トルマニアン帝国で30年前に流行ってね…。

甲殻類みたいな肌になるから、蜘蛛族が原因じゃないかって、うわ

さが流れてね…。

実際には、ネズミに噛まれることでネズミから感染することが、10年前に分かったんだけどね。

今じゃ、清潔にしてれば感染しないし、感染しても月見草を煎じて飲めば治ることが分かったんだけどね。

ただ、今でもトルマニアン人は、病気の原因は蜘蛛族だっと思って  
いるし、そう教えてるからね。

特に、その時に蜘蛛族を虐殺しまくった火の妖精族はこの国の英雄  
だし、今では貴族や王族はほとんど奴らの関係者になってるからね

…」

く、暗い…。

めっちゃくちゃ苦手なんだよね。この空気。

無理して話に入るんじゃないかな…。

余計空気重くなったよ…。

かなり重苦しい空気の中、加奈さんが口を開く。

「一ついいかい？」

なんで私のいる所に向かって召喚魔法かけたんだい？

吸夢草が欲しいなら、私が死ねば意味がないじゃないか」

確かにそうだな…。

なんで殺そうとしたんだろ？

「占いの女神のお告げよ。

対価を払って、占いしてもらったの。

初めて会った蜘蛛族に向かって、数奇の女神に対価を払って召喚を行なえば、願いがかなう可能性があるってね」

なるほど、俺がここにいるのは、すべて占いの女神と数奇の女神さんのせいですかい！

もし、会うことがあったら、胸揉んでやる！！

神様に会えるかどうか分からないけど。

一息入れて、加奈さんが話だす。

「なるほど……。分かったよ。

吸夢草の種の採取は、急ぐのかい？」

「……5年以内なら……」

「そうかい。じゃあ私の妹を助けるのを優先してもらおうよ」

「取引成立ね！」

赤髪少女が初めて笑顔になる。

輝く笑顔ってこういうのを言うのだろう。

かわいいな…。

そう思った瞬間に、ベットに腰掛けていた紳士の右手は、ベットの上に乗っている手足の拘束されたいけな少女の胸を遠慮なく揉みしだいていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7055z/>

---

突然に異世界召喚されたときの対処方法

2011年12月27日00時14分発行